

「もとはこちら」のお話し

No32 今月のテーマ

皆既日食 出会いと別れ



「第2接触直前」 UMA様

あるがまま
そのままぜんぶ
ちょうど良い

(全ての事は) 因果律に基づく当然の結果である事を忘れてはならない

(平井謙次著「自己を生かす道」より)

北原ゆり筆

今世紀最大の皆既日食が46年ぶりに見られるという事で、7月2日を中心に、日本中にお祭り騒ぎが起きました。大人も子供もその日を心待ちにし、目を傷めないための専用メガネも売り出され、先を競って買い求めた人も多かったようです。

ところがそのメガネも早々に売り切れてしまい、どうしたら良いだろうかと途方に暮れる人達に対し、今度は、そういうメガネを使わなくても安全に観察できるという方法が、テレビやラジオを通じて指南されました。

休暇をやりくりして、観察ツアーに参加した人も沢山いたようです。普段は静かで小さな島が、どっと押し寄せてくる大勢の人を受け入れる事となり、旅行者や地元の人々の、そのテンヤワンヤ振りをテレビは報じています。

また大きな船を借り切って、はるか彼方の南の洋上にまで、出かけて行った人々もいたようです。勿論テレビが伝えた圧巻は、当日の皆既日食そのものです。

完全に月に隠れた太陽。そしてその周辺から、チラチラと立ち上って見える太陽の赤い炎。やがてわずかにのぞき始めた太陽が、キラキラと輝いて見える、いわゆるダイヤモンドリング。それらの様子を、テレビは勇壮荘厳な音楽をバックに映し出して見せ、新聞も第一面に、その瞬間の美しいカラー写真を載せました。

時間にしてほんの5、6分の天体ショーでしたが、それをしっかりと眺め、観察し、その感動を心に刻み込んだ人もいれば、折角遠方まで出かけて行ったのに、悪天候で期待外れに終わってしまった人、あるいはまたその時、空を眺めるのではなく、地面に映る木漏れ日の影、

の形によって皆既日食を観察した人等々、夫々に楽しい思い出を残したと思います。

私もその瞬間、誘われるままに屋外に出てみました。元々があいにくの曇天だったため、どこまでが日食による暗さなのかが、今ひとつはつきりしませんでした。それでもその時、辺りがより一層暗くなるのを感じ取ることができました。

そして戻りつつある光の中で、次の皆既日食の事を考え、その時自分はどこで誰と、どのようにしているだろうか等と思いました。

あたりまえの事ばかり

さて、人々を駆り立て、素晴らしい感動を与えるこの皆既日食も、いつてみれば天文学で簡単に計算できる全く当たり前の自然現象の一つにすぎず、次は26年後に起きるという事です。

ただ、それがめつたに見られない現象であるために、私達は興奮したりはしゃいだり、感激したりするというわけです。この皆既日食をはじめとして、あたりまえの事がああたりまえの事として起きるのは、何の不思議もない事です。

朝になれば朝日が昇り、夜になれば夕日となってそれが沈むという事もあたりまえの自然現象ですし、その朝が来れば目が覚め、夜になれば眠くなるという私達の生理現象も、これまたあたりまえの事として私達は素直に受け入れています。



ところがこういう自然現象や生理的な事とは違い、「自分の人生」そのものに付いては、なかなかそうは簡単には受け入れられないというのが、私達人間の厄介なところですよ。

体験した事を、「なぜこんな事になるのか納得できない」とか、「神も仏もあるものか」「いったい何の因果で」等といった、人生に不条理を感じ、或いは運が良いとか悪い等と言って、自分が体験した事を、そのまま素直に受け入れようとしないのが人間です。

そして殆どの人が、人生とは自然現象とは何の関係もなく、何か特別なものであるようなふうに思っています。しかし決してそんな事はありません。私達の人生も、自然の摂理通りに起きては消える、全くあたりまえの人生なのです。

数知れない世界の中で

もともとこの人間世界には、人間が考えうる限りの、あらゆる世界があります。幸せという世界もあれば不幸という世界も、病気という世界も、健康という世界もあります。失敗という世界や、成功という世界、争いの世界、平和の世界、豊かな世界、貧しい世界等々です。そしてどの世界にもそれ特有の波動というものがあります。

自分がどの世界に属するかは、自分自身がもつ波動によって決められます。粗い波動の人は粗い波動の世界に、細かい波動の人は、細かい波動の世界に住むことになります。



ですから例えば自分が常に粗い波動を出しながら、細かな波動の世界に住みたいと望んでも、それは受け入れられない無理な話です。

しかし自分の波動が変われば、願う世界の住人になることは可能です。丁度、数ある番組の中から、自分が好きな番組にチャンネルを合わせれば、その番組を観ることが出来るのと全く同じことです。

心温まる清らかで美しい世界を見たい、そこに住みたいと望むのであれば、自分自身がそれにふさわしい波動の持ち主になれば良いのです。

たとえば映画を観るにしても、裏切り合い憎み合うようなものを選んで観るよりも、できるだけ心温まる美しいものを観るようにすることです。

あるいは自暴自棄の末に無差別殺人を犯した人の話を聞くよりも、どんな苦境の中でも負けずに努力をして、その苦しさをバネとして人生を切り開いていった人の話を、素直な心で聞くことです。

「勝った、負けた」の賭け事にうつつを抜かす時間があれば、その同じ時間を、文化や芸術、心地よい音楽や絵画などの観賞に当てるようにすることです。

破壊よりは創造を楽しむことです。

そして毎日のあたりまえの事や小さな事にも、驚いたり喜んだりできる、純粋な心を育てることです。

これとは反対に、汚くドロドロした世界や争いごとが好きな人は、できるだけ感動するような美しいことを遠ざけ、愚痴や不平不満、怒り等で心をオダオダ、ドロドロに汚し

ておけば、間違いなくそういう世界の住人になる事が出来ます。どちらを選ぶも、それはその人の自由です。そして選んだ通りの人生を私達は歩んでいます。

出会いと別れ

太陽と月と地球が長い運行の末によりやく巡り合い、また別れ、夫々の軌道を歩んでいくように、人生にも、すばらしい出会いと別れがあります。そしてそれらは、決して偶然の出会いでもなければ、偶然の別れでもありません。全ての事が必要があつての出会いであり、そして必要があつての別れであつたはずです。

そしていつの日かまた、宇宙の、すなわち私の必要によつて、次の出会い、即ち再会と別離が起きるのです。そういう繰り返しの中で、私達は互いを磨きあい励ましあい、時には反面教師となりあつて、共に浄化の道を歩み、これから共に生きていくのです。

私達のこの短い一生などは、宇宙から見ればほんの一瞬の出来事にすぎません。しかしその一瞬一瞬も宇宙から見れば、全てが必然の出来事であり、全ての人があの皆既日食のダイヤモンドリングのように、キラキラとした輝きを放ちながら、今を生きている様に思います。



編集発行人

もとはこちら会 資料編集部 北原友也

専用HP

<http://www.motoha-kochira.com>

mail: data3@motoha-kochira.com